

# かえつ有明中・高等学校

新帰国生教育シリーズ その2

## — かえつ有明って、どんな学校？ —

帰国生担当主任 久保 敦

### 1 未学習科目の支援は？

現地校やインターナショナル校に通学していた帰国生にとっては、日本語での未学習項目があります。このことは、当然のことであり、その分他の言語での学習に取り組んでいたことを意味します。従って、帰国生を受け入れる学校は、その未学習項目をしっかりと支援する体制を整える必要があります。

その学習支援の科目や補習の有無が学校選択の一要因になることも確かです。その支援の方法は、学校によって様々ですが、帰国生の学習・生活を一般生となるべく同じ状況で受け入れていくことが大切です。米国の ESL 制度を見ても、多文化の子供を共生教育させることによりお互いが啓発し合い、その能力を伸ばしていくことの重要性は提言されています。しかし、言葉には、意思疎通の会話力と思考言語の英語力があり、その習得理論をしっかりと理解したうえで、言語支援の方法が取られているものと考えます。その観点からも帰国生と一般生との共生環境の中での学習には大きな効果があります。共生教育の中で、生徒が互いの能力を啓発し合い、個性を認め合い、知識を分かち合うことの重要性をしっかりと認識する必要があります。

本校の帰国生への英語以外の他教科の学習支援は、次の通りです。帰国生は、原則編入後は、「難関大学進学コース」のクラスで学習をしますので、他の生徒と同じ進捗で学習をします。このコースは、中高一貫の先取り授業を展開しているクラスですので、学習進捗の速さと家庭学習の量は、他のクラスに比べてかなり多いです。

そのため、現地校やインターナショナル校出身者の中高生を対象に「日本語支援講座」を週1回～4回実施しています。この支援プログラムは、日本語を中心とした指導観点に加え他教科「数学・社会・理科・国語」の2教科連携授業（Two Subjects Team Teaching）を実践しています。放課後に帰国生が集まり、支援を受け、授業後に「学習の記録」を記入し、学習進捗の把握をします。帰国生がこの支援を修了するためには、「到達目標」を超える必要があります。この目標を超えるべく学習意欲が向上します。この指導には、別途指導費がかかります。

- 授業実践（例）
- 1回 月曜日（国語＋日本語）
  - 2回 火曜日（数学＋日本語）
  - 3回 水曜日（社会＋日本語）
  - 4回 木曜日（理科＋日本語）

更に、日本語支援講座が終了してからも本校には、「教育支援センター」という生徒の学習・進路を支援する特別なシステムがあります。このセンターが主催する0限（早朝授業）や放課後や長期休暇中の講習や補習などを活用しながら学習の先取りをすることもできます。

### 2 進路指導は「国際併願」をめざす！

英語力を伸ばし、未学習事項を補う帰国生の支援プログラムが整った教育環境の中で学習をした帰国生もしっかりと国内外の難関大学進学に対応した学力を見に付け、本校がめざす「国際併願」を実現したいと思っています。国際併願とは、国内や海外の難関大学の両方を視野に入れた進路指導のことを総称して呼びます。帰国生の進路希望は様々であり、国内の大学に進学を希望する生徒もいれば、海外の大学に進学を希望する生徒もいます。そのような幅広い進路指導が可能な制度の確立と学力を身に付けさせることが目標です。



マーチング全国高校総合文化祭パレード

## 編入試験・入学試験を受けたい！

### ★ 2009年4月編入試験日程

2009年3月14日（土）

対象学年：新中学2・3～新高2・3（男・女）

### ★ 2009年度 帰国生入試日程→対象学年：新中1・新高1

A 選考（現地校・インターナショナル校出身者対象）

中高 第1回目 2008年12月10日（水）

中高 第2回目 2009年1月10日（土）

募集人員：中学10名 高校若干名

試験科目：英語筆記試験・日本語作文・面接（保護者同伴）

\* 入学手続きは、1月末までとします。

\* 成績優秀者には、特待生制度（入学金・授業料免除）があります。